

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073600423		
法人名	医療法人 聖恵会		
事業所名	グループホーム安居		
所在地	福岡県古賀市鹿部485-1		
自己評価作成日	平成28年3月24日	評価結果確定日	平成28年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年4月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

緑に囲まれた自然豊かな環境の中で、「第2の我が家」を運営方針に掲げ、敷地内の母体病院との24時間体制での連携を図りながら、安心した生活が送れるよう援助しています。昨年度より、法人全体で魔法の技術とも称されているユマニチュードに取り組み、尊厳ある生活が送れるよう、スタッフ一同共通意識を持ち、相手の気持ちに寄り添い、理解しようという思いを強くもって、ケアに取り組んでいます。また、生きる喜びを感じていただけるよう、季節の行事や個々の希望に沿った外出支援を提供し、その方らしく穏やかに生活が送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「安居」は認知症専門の医療法人を母体とする2ユニットグループホームである。広い敷地には病院、ショートステイなどがあり、四季折々の花や、緑に囲まれ、自然の風に含まれた古民家風の木造施設はまさに運営方針である「第二の我が家」の風情を有している。中庭では「よさこい踊り」「そーめん流し」などが行われ、地域の方々が参加されるなど地域とのつながりも密接にある。また、母体病院とは、24時間体制での連携を図ることで利用者および家族にも安心した生活を提供している。H26からは尊厳あるケアをめざして「ユマニチュード」に法人全体で取り組み、その考えを軸に目標設定をし、成功体験により、職員の大きな励みとなっている。最近は利用者の日々の様子をブログに綴り、法人内でブログ大賞などを設けることでこちらも士気向上につながっている。地域の信頼も強く、入居待機の方も多し。今後も更に地域を支える事業所として活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの中で理念を唱和している。また、理念に沿った目標を立て、日々、実践に努めている。	法人理念を元にして開設時に作った事業所の独自理念があり、玄関先に掲示している。地域密着型に変わった際に地域との関わりについて見直しており、年度末には全員で話し合い、理念に沿った年間目標を定める。中間での実施状況のチェックも行い、理念が目標として具体的に実施されるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会へ参加し、顔なじみの関係ができています。また、事業所の催事に地域の方を招待したり、実習生の受け入れや保育園児との交流を図っている。	民生委員から老人会の活動予定と、公民館での出前講座の予定を頂いており、年に4回程度交流行事と一緒に参加している。毎年敷地内の菜園を開放して、保育園児と芋ほりを一緒にいき、入居者も喜んでいる。また事業所単独で夏に納涼祭を行い、地域の自治会、家族なども招きBBQを楽しまれた。法人全体で地域への情報発信にも取り組んでいる。	地域ボランティアの活用をさらに広げていくことが期待され、地域行事に参加できる方の参加を増やす取り組みがなされていくことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館での交流時、認知症について説明をしたり、法人全体で介護予防教室を開催し、地域に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真を折り混ぜた活動報告や研修報告や参加者との意見交換を行い、地域の行事参加につなげている。また、グループホーム協議会等での研修に参加し、他事業所との意見交換を図りサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとに開催し、区長、民生委員、市職員、家族は輪番制で、年に1回は参加され、入居者と一緒に出ることもある。満足度調査の結果報告や、活動報告や研修報告はアルバムを使うことで分かりやすく行う。参加者からの意見も多く、ケアに関してや備品に関しての要望なども頂いている。運営推進会議に関しての情報交換を他事業所とすることもある。	議事録を家族へも郵送などで報告することで、家族との情報共有や取り組みの理解を深めてもらってはどうか。また、すでになされている他事業所との関わりを深め、運営推進会議の相互参加の検討などもされてみてはいいのではないか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して事業所の取り組み状況や実情を伝えている。また、質問などあれば電話にて相談を行い協力関係を築いている。	運営推進会議には毎回案内し、参加してもらっており、その際に入居者情報や状況報告をしている。請求に関してなど質問がある際も電話で相談も行う。納涼祭も毎年案内しているがまだ参加はなかった。2~3か月ごとの事業所連絡会にも行政から参加しており、その場で質問することも出来る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲示している。また、全体カンファで学んだり、外部の研修会での課題をスタッフで取り組むなど、身体拘束を理解し日々のケアに努めている。安全配慮のため、ご家族了解のもと玄関の施錠だけは行っている。	年間計画に沿った内部研修や、外部研修にも参加し伝達もしている。研修機会は多い。玄関は職員管理による電子施錠がされているが、中庭には自由に出入れる。隣接の別事業所で離設事故があったが、以降は見回りの時間を増やして対応している。不穏な際も無理に引き止めず見守り、付き添いで対応する。原則拘束をしない方針で徹底し、スピーチロックに関しても意識して取り組んでいる。	

H28自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体カンファで学んだり、外部の研修会の内容を伝達している。また、日々のケアの中でも言葉かけに注意し、意識を高めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での権利擁護の研修会や全体カンファでの勉強会にて制度を理解し、支援できるような取り組みを行っている。また、成年後見人制度を利用している方の支援を行っている。	入居前から外部の成年後見制度を使っている方が1名おり、対応を通して制度理解を進めている。外部研修にも参加、内部研修でも取り上げており、説明用の資料やパンフレットも準備している。必要時には母体法人の関係部署とも協力して対応も出来る。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得されるまで十分な説明を行い、質問しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議でご意見を頂き、スタッフに情報を伝達、共有している。また、満足度調査を行い、結果についてスタッフで話し合い、反映させている。	法人の苦情対応委員会を通して満足度調査を毎年行い、運営推進会議でも取り上げ、集計、結果報告もしている。以前は全行事に家族も招きその際に家族会をしていたが、去年は出来なかった。家族の面会機会も多く、ほぼすべての家族が月に1回は面会している。「安居だより」を毎月発行し、入居者ごとの写真や、担当からのコメントもつけている。	去年は家族会が出来なかったため、家族参加の行事との兼ね合いや、運営に関して、実現できそうな取り組みを職員で話し合っ取り組まれることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にコミュニケーションを取り、個別に意見や提案を聞いたり、全体カンファで意見交換を行い運営に反映させている。	事業所全体のカンファレンスと同日でユニットミーティングも開き、全体の情報共有と勉強会、入居者の状況に関してなどを話し合っている。パート職員も含め全員参加で行い、議事録も回覧している。意見も活発に出され、積極的に取り組んでいる。院内発表の機会があり持ち回りで職員が発表している。日々の申し送りでも意見を出し合い随時対応に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アニバーサリー休暇を取り入れている。また、年に1度勤務状況などを評価し、給料に反映され、やりがいへと繋げている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層の採用があり、定年後も継続して働くことが出来る。また、個々の能力を活かして勤務できるよう配慮している。	男性は少ないが20～70歳代まで幅広い職員がおり、定年後も希望があれば延長して勤めている。3年前からワークライフバランスに取り組み始め、希望日に自由に休めるアニバーサリー休暇や、職能評価のキャリアラダーが始まり、意識向上や人事考課にもつなげている。研修機会も多く、勤務として参加も出来る。休憩時間や場所の確保もされている。職員も能力や特技を生かして、菜園の手入れやレクの作業などそれぞれに取り組んでいる。	

H28自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体でユマニチュードの技法に取り組み、尊厳あるケアに努めている。また、研修会にも参加し、人権を学んでいる。	法人で取り組む「ユマニチュード」は内外の研修で理解を進めており、入居者に対しての人権を尊重したアプローチにつなげている。法人主体の臨床倫理に関する研修や、人権に関する研修も外部講師などを招いて行われており、全体での意識も高く、人権教育や啓発活動に取り組まれている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに合った、内部、外部の研修会に参加し、スキルアップを図り、資格取得に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワークの勉強会や、グループホーム協議会での施設見学などに参加し、意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来ていただき、生活状況の把握に努めている。また、会話の中から不安や要望に耳を傾け、安心を確保できる関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階でご不明な点や不安な点など、こちらからお声かけをする事によって、要望などを引き出し、より良い関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の思いを受け止め、必要としている支援を提供できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方が出来る事を大切に、一緒に家事をするなど、共に過ごし、支え合う関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで状況を伝え、常に情報を共有し、共に本人を支えていく関係を築いている。		

H28自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や家族と共に墓参りをしたり、自由に外出、外泊が出来る環境を整え、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	面会はいつでも受け入れており、友人が来た際も居室でゆっくり過ごしてもらっている。家族との協力の下、一時帰宅や外泊、外食をする方もおり、事業所の支援で個別に外食に連れていくことも以前はあった。少人数でのドライブの際に自宅近くを回ることもある。地元の方が地域行事の際に友人などと示し合わせて会うこともあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し、孤立しないよう座席の配置を考え、話題の提供をしながら入居者同士の交流関係に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へ面会に行ったり、入居のご紹介をしていただいたり、退去後の関係性も大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から思いや希望を聞き取り、意向の把握に努めている。困難な方には、ご家族と相談し、介護計画に反映している。	入居時にセンター方式の一部を活用したアセスメントを行い、家族にも直接記入してもらっている。特に詳しく把握したい場合には様式を変えて、24時間シートを使うこともある。初回取得時は全員で閲覧している。意思疎通の難しい方は家族からの要望や反応を見てアプローチにつなげる。ユマニチュードの取り組みから、口腔ケアがスムーズにできるようになったり、「外に行きたい」「歌いたい」などと言葉を出すようになり、意思の発露や要望も増えてきて意向の把握につながった方もいる。	日頃のケアなどで新たに分かった情報などを追記していくことで、より生きる記録としての管理を進めてはどうだろうか。基本情報などを含めた見直しを介護更新時などに行うことも望まれる。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴などお聞きし、その人らしい暮らし方に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、記録、口頭での伝達や申し送り等で情報の共有を図り、把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族の意見をよく聞き、ケアに取り入れ、必要時には他部署との連携を図りながら介護計画を作成している。	職員は1対1の担当制で、ケアチェック、モニタリング、プランの素案、家族との連絡担当などを受け持つ。毎日のケアプラン実施チェックも行い、それをもとに3か月でのモニタリング、プランの見直しにつなげている。毎月のカンファレンスで全員分の情報を共有し、見直し時に担当者会議、家族にも参加してもらおう。医師やPTからの意見やアドバイスを頂き、リハビリの実施につながることもあった。	プランの見直しに際して、他職種からの意見も参照しているので、照会記録や参考資料として担当者会議録に残してはどうだろうか。

H28自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月モニタリングの評価を行っている。また、申し送りや連絡ノートで情報を共有し、必要時には変更プランを作成している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況を把握し、その時々ニーズに合ったサービスが提供できるよう、柔軟な対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児とのふれ合いや中学生の体験学習の受け入れ。歌のボランティアの受け入れなど楽しく生活が送れるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にかかりつけ医の説明をしている。母体病院以外の受診はご家族と相談し、適切な医療を受けることができるよう支援している。	外部のかかりつけ医の継続も出来るが、母体病院を希望される方が多い。眼科や泌尿器科などの他科受診は基本は家族に通院介助してもらっている。職員に看護師も3名おり、常に一人は出勤するようにしている。敷地内に病院があるため、基本は受診をしており、2ヶ月に1回は往診もされている。医療情報はその都度家族とも共有している。毎日の健康管理も看護師を中心に管理されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日状態観察を行い、異常があればすぐに看護師へ連絡し、母体病院との連携を図り、受診へと繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、情報提供書を提供し、情報交換を図っている。また、入院中も必要時には訪問するなど連絡を密に取り、安心して治療していただけるようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、早期にご家族と主治医との面談があり、今後については、ご家族の意思を尊重し希望を取り入れた方針を共有している。また、ターミナルケアについて勉強会を行っている。	看取りに対応する方針があり、希望されれば最期まで支援する考えで、契約時に説明するが重度化の際に改めて説明し同意を得ている。今までに2名の方の看取りを行った。日中は看護師の勤務体制があるため対応もしやすく、夜間など常時対応が必要な場合は家族にも支援してもらい極力要望に答えている。ターミナルケアの研修も法人主体で取り組み、今後も強化していく計画である。母体病院には入院設備もあるため24時間対応もなされている。	

H28自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体病院での研修会や、カンファレンス等で勉強し、実践で対応できるよう努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体病院との連携を図り、年4回の防災訓練を実施。消火器の使用方法や避難経路など、消防署の方より指導していただいている。また、勉強会やマニュアルの見直しもしている。地域の防災訓練にも参加し、協力体制を築いている。	運営推進会議時に地域の防災訓練の情報を頂き、昨年初めて地域防災訓練に参加した。病院主体の訓練が年2回、事業所主体も年2回あり、消防署からも参加されている。法人全体で備蓄物を3日分確保している。平屋建てのため避難もしやすい。訓練は職員が交代で担当し、全員が受け持つようにしている。新規入職者にはオリエンテーションとマニュアルで伝達する。	今後地域の民生委員さんおよび区長さんなどに防災訓練の案内をし、参加をお願いしてはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	母体病院での接遇の研修会や外部の研修に参加。ユマニチュード技法を取り入れ、その方に合った尊厳あるケアの提供に努めている。	法人での研修で接遇に関しても力を入れており、年2回程度外部講師からも研修を受けている。高齢者を個人として尊重し能力や状態を観察し利用者の顔を見て話しかけるなど、ユマニチュードによっても本人に寄り添ったケアを行う。ブログやお便りでの写真利用もあるが、口頭で同意を得た上で許可をえた物だけに留めている。居室などもドアをしめてプライバシーに配慮している。入室時にも必ずノックして声掛けしてから入るようにしている。	ブログや広報の写真利用などに関しても書面でも同意を得ることで、さらに個人情報保護に関しての意識を高めていってはどうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりを通して、ご本人の思いに寄り添いながら、適切な声かけを行い、自己決定できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活暦を把握し、個人のペースを大切に無理なく生活が送れるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アクセサリーやスカーフなど、ご自分で選んだ物を着けたり、ご家族と一緒に美容室へ出かけるなど、おしゃれを楽しんでいただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	トレー拭きや野菜の皮むきなど、一緒に食事の準備を行っている。また、ジュースやゼリーなど好みに合った物を提供したり、おやつと一緒に作るなど食事が楽しみとなるよう援助している。	献立は病院の管理栄養士が管理し、それを元に職員が発注して地元の肉屋や豆腐屋に配達してもらっている。調理専任の職員が3名おり、昼夜は調理員が行い、朝は職員が行う。下ごしらえや米とぎなど出来る事を手伝ってもらうこともある。おやつレクとして一緒にすることもある。誕生日もその方だけに対して材料からケーキを作り当日に祝っている。食べたいものは外食時に食べる。職員も同じものを一緒に食べる。	

H28自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量のチェックを行っている。また、体重の増加や摂取困難時には主治医に相談し、個別支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ガーゼ清拭や歯間ブラシなど個人に合った方法で口腔ケアを行っている。また、必要時には、母体病院の歯科を受診している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて個人の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行っている。また、母体病院にて自立に向けた取り組みについての発表も行っている。	ユニットごとの排泄チェック表があり、毎日全員分を管理している。トイレ排泄を基本にして汚染を減らしていく方針で、排泄の失敗が続いた方に声掛けを続けたことで、尿意の訴えが出てきて改善につながった。退院後状態の悪化していた方も、支援によっておむつから布パンツ利用にまで改善したこともあった。申し送りの際や随時に気づいた職員が改善提案を行い負担軽減に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便の有無を確認し。運動や水分補給にて排便を促すよう取り組んでいる。また、起立困難な方もトイレでの排泄が出来るよう支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行い、予め声掛けし、体調や希望に沿って入浴できるよう支援している。また、その方に合った入浴方法でゆっくり入浴ができるよう配慮している。	週3回、午前～午後の対応をしている。拒まれた際は曜日や時間帯を変えて対応し、陰部洗浄や更衣で対応することもある。希望する形態での入浴をしてもらう。露天風呂風の坪庭付きの浴室に檜の浴槽で温泉気分も味わえる。看護師によって皮膚観察や軟膏塗布などすることもある。希望するシャンプーなど持ち込みで。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状態に合わせて、食後の臥床を取り入れていく。また、日中は散歩や活動を行い夜間安眠できるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬について把握し、マニュアルに沿った服薬介助を行っている。変更ある時は、看護師から説明あり、様子観察し異常があればすぐに報告している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが、得意とするところで力を発揮して頂き、張りのある生活を送っていただくよう支援している。また、希望に沿った気分転換ができるよう努めている。		

H28自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や敷地内の散歩を行い、気分転換を図っている。また、年間行事計画を作成し、季節の行事を取り入れ外出したり、希望の場所に出かけるなど、外出支援をしている。	昨年から新たに年間予定を作り直し、外出機会を増やした。特に少人数での外出を増やし、買い物や軽食、外食、ドライブなどを行うようになった。日頃敷地内の散歩や病院の売店、中庭に出たりと安全に外気浴を楽しむことができる。全体でもお参りや花見などに年4、5回程度企画している。偏りないように全員に外出を提供する。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中からご本人の必要物品が購入できるよう配慮している。また、外出時の買い物時には、ご自分で支払い頂くよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話が出来るように支援している。プレゼントなど届いた時には、こちらから電話をかけたたり、ご家族よりかかってきた時には、取り次ぎ、会話して頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや匂い、湿度など、不快と感ずるものを排除し、快適に生活が送れるよう努めている。また、花や季節の物を飾り、四季を感じていただけるよう工夫している。	家庭的な雰囲気や大事にし、キッチンも近く食事のにおいが近くに感じられる。フロアなども電球色の照明にすることで暖かみを感じられる。絵画や写真などを飾ったり、季節折々の草花も飾っている。ユニットによってもカラーを変えることで、違いをもたせている。15~20m程度の真っ直ぐな廊下の先にあるリビングは南向きで、陽射しと緑の間をやさしい風が、流れていた。冬場は床暖房で温かく過ごせるように工夫されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、入居者様同士が仲良く会話できる空間を作っている。また、和室で横になられたり、ご自分の席で外を眺めたり、ゆっくりと過ごしていただける環境作りをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具など、昔から使い慣れた物を使用している。また、居室には、テレビや飾り物、ご家族の写真などを置き、居心地良く過ごせるようにしている。	室内のドアは木組みに工夫を凝らし、それぞれ違ったデザインに作られている。窓は障子が設置され、部屋の電気は電球色で、温かみのある落ち着いた居心地良い居室である。また使い慣れた鏡台、タンスなどがあり、家族の写真なども飾られ、本人、家族と相談しながら、安らぎを得られるように工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内を見やすく表示したり、一人ひとりが出来る事を理解し、自立した生活が送れるよう配慮している。安全を第一に考えハード、ソフト面の充実を図っている。		